2017 年 12 月

わたしの経歴書

氏　　名　　戸田　友介（トダ　ユウスケ）
生年月日　　1981 年 12 月 9 日
所　　属　　株式会社 M-easy　代表取締役社長
学　　歴　　名古屋大学工学部　社会環境工学科　卒業
家　　族　　妻、長男 6 歳、長女 4 歳、次男 2 歳
座右の銘　　天命に安んじて人事を尽くす
自宅住所　　愛知県豊田市余平町鹿子洞 33-2
電話番号　　080-6903-7679
メール　　y-toda@m-easy.co.jp

【地域で、はたらく、いきる、暮らしごと】（2017 年 12 月時点）
株式会社 M-easy 代表取締役社長、小渡・小原販売店戸田新聞店代表、おいでんさんそんず、一般社団法人おいでん・さんそん理事、つくラッセル推進コンソーシアム代表、築羽自治区広報部長、旭木の駅プロジェクト実行委員会事務局、あさひ薪研事務局長、耕 LIfe アドバイザー、板取の家運営委員会、福蔵寺ご縁市実行委員会、あさひ若者会、ぬくもりの里・やさしい美術委員会、豊田市都市農山村交流連絡会議委員、地域スモールビジネス研究会、ミライの職業訓練校代表世話人、NPO 法人ひとまちこれから副理事長、NPO 法人みち理事、暮らしっく Car をつくろう♪実行委員会委員長、里モビサークルメンバー、山里合唱団「こだま」団長、旭おどらっせる、ぬくもりの里福祉特派員、やさしい暮らし委員会委員長、旭交流館運営委員、薪ストーブ民主化プロジェクト実行委員会、旭 GS（減災）ボランティア会員、旭商工会員、小原商工会員、豊田市消防団第九方面隊所属、伯母沢流笛太鼓保存会、旭しょうゆづくりの会、テノールシンガー見習い（竹内支保子師事）、民謡歌手見習い（西守芳泉師事）など

～経歴～

1981 年　愛知県北名古屋市（旧西春日井郡師勝町）にて戸田家の長男として生まれる
実家は祖父の代からのダンボール工場。自宅の隣の工場にて、家族だけで経営。長男として産まれる。祖父、祖母、父、母、2 歳下の弟、9 歳下の妹。近隣の幼稚園、小学校、中学校、一番近い公立高校へ通う。
ルール１：ご飯をいっしょに食べること、17 時半に夕食を食べること、ルール２：20 時以降、テレビは、時代劇、刑事、サスペンスものだけルール３：日曜日は、家族の日、必ず家族で出かける（買い物、レジャー、運動）小学校 1 年生から高校 3 年生まで毎年学級委員（笑）中～高校　卓球部　高校 3 年生はエースでないキャプテン。小さい頃の夢は「パイロット」、中学生では、自分の家を建てたいと「建築士」、高校にはいって「土木へ進学したい」となる。
総じて、信頼度の高い優等生であったが、中学生以降は、それを悪用して、門限を徐々に遅らせていったり、夜遊びにでていけるようにしていった。

2000 年　名古屋大学工学部社会環境工学科　入学
１年生の前期から、学校にいかなくなり、半年で落とせる単位数は全部落とす。その後はギリギリを目指して単位取得。アルバイト漬け。（この頃が一番稼いでいた笑）工学部の新歓サークルの運営、代表になる。昼夜逆転のよくある大学生の生活。実家から通い、大学後半はほぼ帰らず。

2002 年　某行政組織へインターンシップをきっかけに既存の社会に疑問をもつ

2002 年　各学部横断の仲間と一緒に、名古屋大学大学院教育学研究科牧野篤助教授（現東京大学大学院教育学研究

科教授）が座長をつとめる、ひと循環型社会支援機構へ参加

農業に興味を持ち、学業をほっぽりだして農家へ研修にいくようになる。

2003 年　ひと循環型社会支援機構の支援で名古屋大学発ベンチャー株式会社 M-easy 設立

2004 年　中国上海市崇明島で計画された田園都市プロジェクトに参画（～2005 年）

2004 年　名古屋大学工学部社会環境工学科　卒業

2005 年　小泉政権下の日中の政治不安、同時期に潰瘍性大腸炎にかかり、帰国

とにかく儲かる農業ができないか試行錯誤、一方で、昼間は農業、夜間は佐川急便でアルバイトの生活をしていた。

2007 年　常滑へ本社移転

滞在型市民農園を核とし高齢化社会における農業＋生きがいをベースとした

新しいコミュニティづくり事業「セントレアガルテン」を企画（頓挫）

2008 年　やさい安心くらぶ LLP を設立　名古屋市内での安心安全野菜の移動販売開始

2013 年 11 月まで事業を継続し、最高で年商 3000 万円。2 人分の給料をだせるようになる。

2009 年　豊田市、東京大学、株式会社 M-easy との産官学連携事業「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」（2012 年 3 月まで）を実施　豊田事業所を設立

矢作川流域の市民団体で構成される「農山村へシフト　千年委員会」へ参加　山本薫久氏、西川早人氏、丹羽健司氏、澁澤寿一氏、高野雅夫氏、洲崎燈子氏など矢作川流域で活動をする多様な仲間とメンターを得る

2010 年　「旭暮らし」ブログを開始

農作物の生産販売から暮らしの価値化へ事業転換　みんなで生き残るには、ひとりひとりが幸せになる居場所を、ひとりひとりのありかたから見出して、いっしょにやっていく、これしかなかった。

2011 年　豊田市旭地区へ家族で I ターン移住、長男が産まれる（集落で 25 年ぶり）

福蔵寺ご縁市、みんなでつくってみんなで分ける野良仕事など、山里暮らしの

ファンづくり事業開始

2012 年　「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」終了後、7 名の若者が定住

旭木の駅プロジェクト実行委員会の事務局参加

旭地域会議委員　就任

2013 年　おいでんさんそんセンタープラットホーム会議参加

あさひ若者会　結成参加

長女が産まれる（集落で女の子は 28 年ぶり）

地域スモールビジネス研究会　発足参加

2014 年　移住から３年、「暮らしのリズム」を刻めるようになってきた。

旭地域会議　副会長　就任

電動軽トラ改造計画「暮らしっく Car をつくろう♪」主催

木の駅から派生して「あさひ薪づくり研究会」を設立、事務局長

山里合唱団「こだま」発足、団長

2015 年　半農半林隊　社会実験スタート、薪ストーブ民主化プロジェクト　始動

小渡・小原販売店　戸田新聞店　営業スタート

次男が産まれる

2016 年　やさしい暮らし委員会　設立　委員長　あさひごよみ、あさひめくり制作スタート

中京大学現代社会学部大友ゼミの学生受入開始

廃校になった築羽小学校の再活用を模索しはじめる

2017 年　「あさひ薪づくり研究会」を解散し、「あさひ薪研」として株式会社 M-easy を事務局として創業する
精神障碍者支援を行う NPO 法人みち（拠点：足助）の設立理事に就任
おいでんさんそんセンターの民営化に伴い、一般社団法人おいでん・さんそんの設立理事に就任
旧築羽小学校を活用して、地域を担う人材創造拠点「つくラッセル」を立ち上げる

＜ワークライフスタンス＞

株式会社 M-easy の本社機能を「人材育成、関係育成、バックオフィス、新事業開発」と定義し、総務、経理、労務、福利厚生などの業務をおこない、ベースとなるヒト・モノ・カネ・ツナガリの維持・調整・展開を担う。

新聞販売店、あさひ薪研、ふるさとテレワーク、ミライの職業訓練校、農山村体験研修事業などのプロジェクト型事業をすすめながら、やさしい暮らし委員会、山里合唱団こだま、福蔵寺ご縁市、旭木の駅プロジェクトなどのコミュニティワークを展開し、「つながりの経済」を基本とした暮らし続けていける仲間づくり・地域づくりを進める。

● 戸田家　暮らしのリズムの刻みかた

＜暮らすスタンス＞

毎日少しずつ変化をしながら、成長させていける。生きることと、はたらくこと、暮らすことを重ねていく。それができる環境づくり、仲間づくりをする。

＜時のマネジメントスタイル＞

Google カレンダーと手帳を使い、多くの人と共有しながら、時間に対する自分のマネジメントをする。

０．死ぬときの自分に想いを馳せる。

１．老いをフラットな感覚でとらえる。変化をし続け、受け入れる、体幹、心幹を身に着ける。

２．自分や家族の年齢や家族構成によって柔軟に暮らしのリズムを調整し続けられる状態におく。

３．自然にかかわる仕事、地域の祭り、共同作業、子どもの行事など、季節のリズムから一年単位で段取りを考える。

６．自分や家族の健康のリズムを考慮する。

７．充足感、幸福感、稼ぎなどの「タネ」が育まれる予定をいれる。

８．ルーチンの仕事やその都度の仕事は、3 ヶ月、1 ヶ月単位で段取りしていく。

＊大きくしたり、多くしたりすると儲かりそうなシゴトができるときは、できる限り、自分の取り分とかける時間を小さくなるようにしながら、分け合うか、手放すことで、変化できる余地を生み出していく。

＜お金との付き合いかた＞

【家族構成】　友介、育代、宗介（6 歳）、瑠里（4 歳）、潤之介（2 歳）

【収入】　300 万円くらい（平成 29 年度）+子ども手当 42 万円

【支出】

（固定費）	家賃	： 360,000 円	1 ヶ月 30,000 円
	水道光熱費	： 156,000 円	1 ヶ月 13,000 円
	通信費	： 120,000 円	1 ヶ月 10,000 円
	区費・宮費	： 25,000 円	1 年分
	厚生年金・健康保険	： 217,800 円	1 年分
	火災保険料	： 15,000 円	1 年分
	学資保険（定期積立）	： 150,000 円	高校卒業時に 60 万円/人　3 人分
	県民共済	： 96,000 円	家族 5 人分
	ガソリン代	： 240,000 円	1 ヶ月 20,000 円
	車両費	： 100,000 円	1 年分
	合計	：1,479,800 円	

（流動費）残りで、食費、服飾費、各種消耗品、設備費、小遣いなどをまかない、最終残金は繰越。目安として、たくさん余裕があるわけではないが、切迫しているわけでもない程度。

＊現在、株式会社 M-easy（年間売上 2000 万円）累積赤字を償却中、戸田新聞店（年間売上 6000 万円）も借入金返済、減価償却中の上で、黒字なので、余剰の資金は次の事業への展開へもっていきたい。

＊年収が 300 万円をこえる場合も家計にはお金をいれない。ひとまず年商 1 億円年収 300 万円を実現、そのあとは年商 10 億円年収 300 万円で、気持ちよくはたらいて暮らしているありかたを模索したい。